海外子女教育だより

気　球　船

第２０１号
平成１８年９月
文部科学省
初等中等教育局
国際教育課
編集・発行
初版発行昭和62年12月

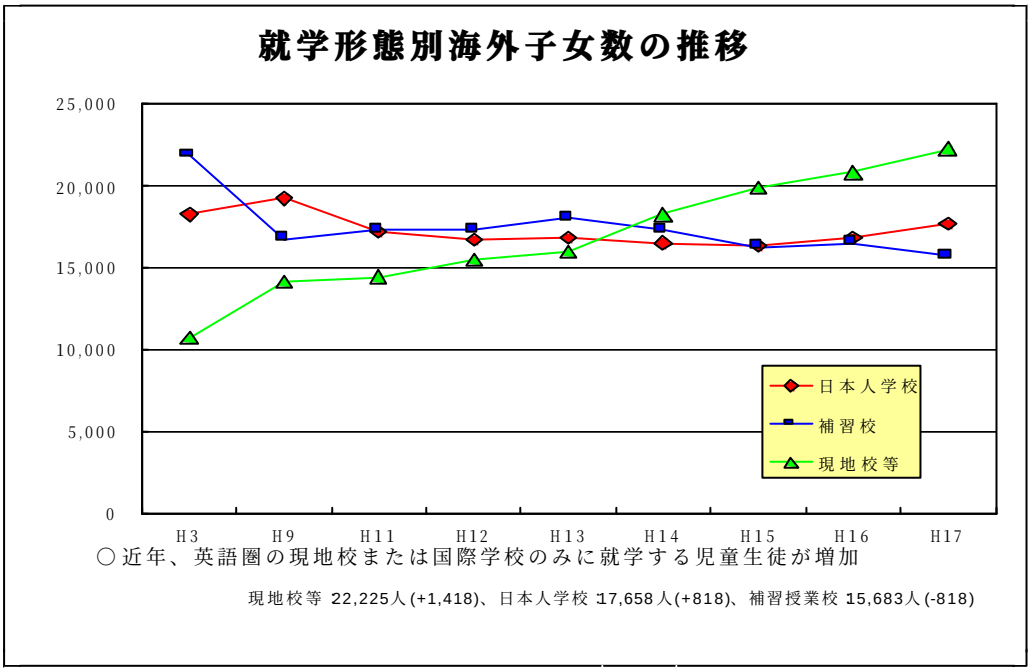
海外子女教育総合HP：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

巻頭言

今後の日本人学校を考える（注）

文部科学省国際教育課長
手塚　義雅

下のグラフは就学形態別の海外子女教育数の推移である。ご覧いただければ分かるように、現地校またはインターナショナルスクール（国際学校）のみに通学する児童生徒が急激に増加し、逆に日本人学校や補習校に通う子供たちの数が減少していることが分かると思う。



このような児童生徒数の減少のため、一部の日本人学校等では学校経営上の困難に直面しているところもあるようだ。

日本人学校離れの現象の背景には、英語を学ばせるために、子供たちを英語圏の現地校やアメリカンスクールなどの英語の授業を行うインタナショナルスクールに通わせようとする保護者が増えていることが考えられる。

保護者によるこのような英語重視傾向は、英語が国際共通語としての地位をますます確立していることが背景にあると考えられ、日本人学校だけではなく、フランス人学校やドイツ人学校などでも同じような現象があると思われる。

非英語の外国人学校

筆者は本年七月にクアラルンプールとバンコクの日本人学校を訪問した際に、現地のフランス人学校（バンコク）、ドイツ人学校（クアラルンプール）を訪問し、学校責任者と意見交換する機会を得たが、これらの学校でもアメリカンスクールやブリティッシュスクールなどの英語圏の外国人学校に生徒を奪われ学校経営が苦しくなってきているとのことである。

これらフランス人学校やドイツ人学校では、多くの日本人学校と異なり、外国籍の子供たちにも門戸を広げているが、児童生徒の増加をさらに図るために、『現地人児童の受け入れ』（クアラルンプール・ドイツ人学校長の発言。マレーシアではマレーシア人の子供を受け入れる際はマレー語の授業を行うなどの義務が生じる由）、『フランス語コースの他に英語コースを設け生徒を確保する』（バンコク・フランス人学校事務局長の発言。これは香港、シドニー、メキシコで英語またはスペイン語コースを併設している日本人学校と同様の制度と思われる）ことを考えているとのことであった。また、受け入れに当たっては、ドイツ語（フランス語）能力の試験を行い、受け入れ可能な児童生徒を受け入れる由である。

フランス人学校、ドイツ人学校双方ともそれぞれの政府から教員派遣などの支援を受けている

が、自助努力としてこのような方針を考えているとのことである。

また、クアラルンプールでは台湾系の Chinese Taipei School にも訪問したが、ここでは寮を整備し周辺国からの生徒を受け入れるとともに、北京語と英語による授業を併用しているとのこと、毎年生徒数は増えており、台湾人生徒の他に韓国人や日本人の生徒も在籍しているとのことであった。（在籍している日本人中学生に ChineseTaipei School に入学した動機を聞いたところ英語と北京語の勉強ができることが魅力であったとのことである）

日本人学校等は、我が国の主権が及ばない外国において、日本人の子どもが、日本国民にふさわしい教育を受けやすくするために作られた学校であり、在留邦人の自助努力を基本に、憲法の「教育の機会均等」「義務教育無償」の精神により政府が支援を行っているものである。日本人学校等に関するこのような従来からの基本的な考え、制度は今後とも維持していくべきであるが、同時に、日本人学校離れという現実も踏まえ、各学校が独自の経営を考えていくことが必要な時期になっているのではないかとも思う。この観点から以上述べたフランス人学校やドイツ人学校あるいは台湾系の Chinese Taipei School は今後の日本人学校を考える際にも参考になるのではないかと思われる。

また、一定の条件の下で可能な範囲での外国人児童生徒を受け入れることは、日本人児童生徒の国際理解を深め、また将来の親日派、知日派の養成にもつながると考える。

なお、マレーシア、タイの出張の際には、現地の日本人学校を始めとする関係者の方々に大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。

（注）本小論は「海外子女教育」誌9月号に掲載されたものです。本稿は教師の方々のみならず、学校運営委員会関係者の方々にも読んでいただければ幸いです。

世界の窓

♪ また来週と手をふる姿 ♪

イーストテネシー補習授業校
校長　福永　規

校名のイーストテネシーは、四季折々の美しさを見せる米国で最も多く観光客が訪れる「グレート・スモーキー・マウンテン国立公園」を中心とするテネシー州東部の総称で、本校は、その中のブラントカウンティ郡のメリビル市にある。

1　概要

①設立　　平成元年（'89）8月
②協賛企業　24社　（現年度）
③児童生徒数　　150人（過去3年間平均）
・長期滞在者　　96%（平均3～5年）
・永（定）住者　　4%（日本語継承が主）
④家庭数　　90（8月現在）
⑤講　師　　講師12名

2　教育課程

小学部　～　国語　算数　社会　体育　他
中学部　～　国語　数学　社会　理科　他
高等部　～　国語　数学　社会　小論文
幼稚部　～　三学期のみ開設
※カリキュラムは国内準拠

3　地域と補習校

①ＥＳＬ教室（メリビル市）
・早期適応の為、無償で平日に開講され、転入生はこの教室から現地校生活が始まる。

②国際学級（補習校）
・地域還元のため、現地の児童生徒を対象に日本語教室として開設（現在７名受講）

4　課題

①講師の確保

他の同規模補習校同様、一番の課題は講師の確保である。現年度はGカード所有者５、駐在員の配偶者２（就労許可証取得）、学生２（学内就労認定）、補習校支援講師（H－1B）3の構成であるが、毎年、講師編制により教育課程編成が変わるといっても過言ではない。

特に、新規Ｈ－１Ｂビザは発行数に制限があり申請受付開始後短期間に制限枠に達する為、国内外に希望者がいたとしても、確実な保証がない2年後の採用の為に申請（支援）をすることは予算上もできないのが現実である。

②講師の生活支援

他校のＨＰ「講師募集欄」にも記載があるように特にＨ－１B講師は、補習校だけの手当てで生活をしていくことは非常に困難であり、また、貴重な土曜日を日本人育成のために勤務して頂いている他ビザの講師に対しても、その熱意に応えるべき生活支援体制の確立が必要である。

５　対応

①ベビーシッター制度導入

乳幼児を持った講師が安心して勤務できるよう校舎内にベビーシッター室を設置。終日、保護者会対応（現在 4講師利用　無料）

②補充教室・夏季教室導入

補習校以外の就労が禁止されているＨ－1B講師の生活支援対策として開始。補充教室は授業終了後、夏季教室は現地校の学年末休業期間を活用した学習塾的な任意選択の教室。

・補充教室（受講料＄10/日）

国・数・小論の８コース開講（小３以上）

・夏季教室（受講料＄ 20／コース）

国数理・小論文の 7コース開講（小３以上）

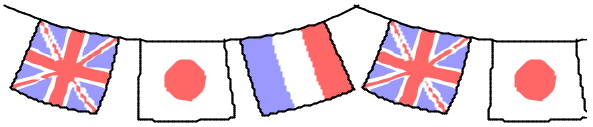
補充教室 50%、夏季教室のべ160人受講

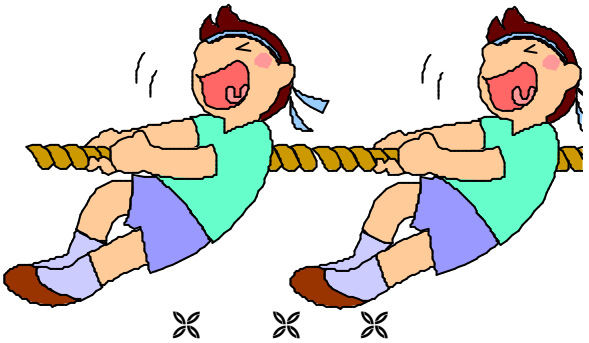
在外教育施設における教育は、学校経営（設置者）と教育経営（校長）の２つの柱で成り立っているが、日本人学校とは違った悩みを抱えているのが多くの補習校であろう。

♪秋の夕日に　背を向けて
　赤・黄に染まる　スモーキー
　また来週と手をふる姿
　明日への希望を胸に抱く
　イーストテネシー補習校♪

創立 15周年記念事業の一環として制定された子どもの手作りによる校歌で補習校としての礎ができたようである。また来週と手をふる姿・・・。週に一度だからこそ子どもたちの目が輝いているイーストテネシー補習校である。

（ご参考　イーストテネシー補習授業校ＨＰ URL=http://www.etjs.org/　）





トピック

出張報告（上海日本人学校虹橋校・浦東校、無錫補習授業校等、蘇州日本人学校）

国際教育課企画調査係　　森本　陽子
国際教育課教職員給与係　　芹川　亜衣

去る７月16日から7月22日にかけて、中国の上海日本人学校虹橋校・浦東校、無錫補習授業校、蘇州日本人学校を視察いたしました。
視察の主な目的は、⑴上海日本人学校の児童生徒数増加に伴う浦東校の開校の状況視察、⑵無錫補習授業校の現状視察、私立在外教育施設設立希望団体と無錫市政府関係者との意見交換、⑶昨年度開校した蘇州日本人学校の現状視察等です。

○上海日本人学校虹橋校

最初に訪問したのは、上海日本人学校虹橋校です。虹橋校は、浦東空港から車で約1時間、上海の近代的な建物が立ち並ぶ市街中心部から西へ約30分のところにあります。虹橋校は、浦東校が今年度開校するまでは、児童生徒数約2,228人という非常に児童生徒数の多い学校でしたが、浦東校開校に伴い、中学部と小学部の一部が移行したため、訪問当日は小学部生のみの1,564人が在籍していました。

上海日本人学校では、今年の11月4日には、設立20周年記念式典が開催される予定とのことです。また、虹橋校では、国際交流活動にも力を注いでおり、日本理解はもとより中国理解や人権教育についても積極的に推進しています。
虹橋校では、充実した施設、熱心な先生方、そして多くの仲間たちに囲まれ、子どもたちはとても生き生きと学習活動に励んでいました。

○上海日本人学校浦東校

次に訪れたのは、今年４月から開校した浦東校です。上海市街の浦東新区で、浦東空港からは車で約30分の所にあり、周辺には緑豊かな世紀公園もあります。浦東校の児童生徒数は小学部363人、中学部450人、計813人です。非常に新しい校舎ということもあり、児童生徒たちは快適な学校生活を送っていました。

浦東校では、居住区や建物別になっているバスでの通学が中心となる下校風景を見せていただきました。児童生徒数が多いだけに、次々と出発する何台ものバスと、子供たちを呼ぶ先生方の大きな声などで、児童生徒の安全のためにご苦労される様子には緊張感が感じられました。大規模校ならではの大変な一面を垣間見ることができました。

浦東校は学校周辺の開発も急速に進められており、周囲にも日本人が集まり始め、これからの発展が大いに期待される新しい学校でした。

○無錫補習授業校等

上海を離れ、車で数時間の距離にある無錫へと移動しました。周囲には太湖などの自然の風景にも囲まれた快適な住環境に恵まれた町です。気候は蒸し暑かったですが、日本と良く似ていると感じました。

訪問した無錫補習授業校は、今年の4月に開校したばかりの児童生徒数12人の補習授業校です。校舎は現地のインターナショナルスクールである無錫東方国際学校の教室を使用しています。

無錫日本人会は十年前に発足し、現在会員企業211社、会員数800名であり、補習授業校から日本人学校への設立を目指し、検討委員会を設立したとのことでした。その主な理由は、補習授業校の子どもの構成は様々な企業の社員の子弟であり、そのほとんどが小学生であるためです。しかし、会員の中には、日本人学校設立についての時期や進め方に関して慎重な声もあるため、引き続き検討していきたいという説明がありました。

この他、現地では私立在外教育施設を設立することを検討している動きがあることから、関係者に対して設立する場合についての必要な手続き等について、「在外教育施設の認定等に関する規定（文部省告示第114号）」に基づき説明をしました。

さらに、今回の訪問では無錫市新区の関係者の方々ともお会いしました。その場では、無錫は江蘇省の中央に位置し、揚子江デルタ地帯には日系企業が集まっており、今後も毎年30社くらいずつ増えると予測されること、在外教育施設が設立された場合には、常州など近辺の町の日本人子弟の教育問題も解決できることから、無錫市としては、日系の学校を設立することを支援したい

と考えていること等の説明を受けました。

○蘇州日本人学校

最後に伺ったのは、蘇州日本人学校です。蘇州市には、古代中国の個人庭園が数多くあり、また「水の都蘇州」といわれるだけあって、川と街が見事に融合した美しい街でした。日本人学校は、平成17年度に文部科学省から認定を受け、今年度は開校2年目になりますが、児童生徒数は開校当初60名程度から順調に増え、現在の生徒児童数は、小学部127人、中学部33人、計160人となっています。

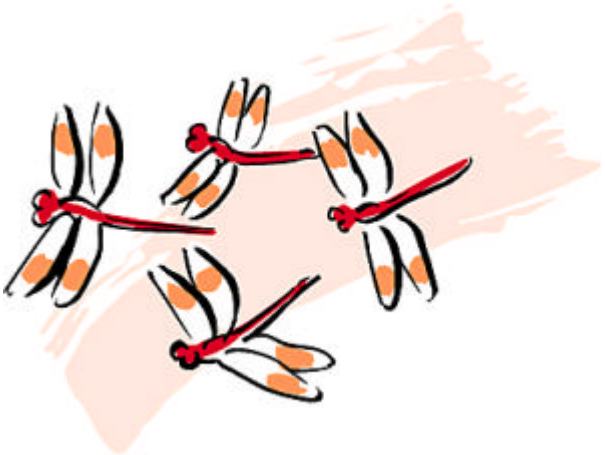
蘇州日本人学校では、今年から初めて中学部3年生が在籍していることから進路指導室を設け、説明会などを行っていることや、１クラスの人数は30人までとしているが、特に幼いうちは日本語よりも中国語の方が得意な子どもが多いので、小1は２クラスに分けて少人数学級にして授業を行っていること等の説明を受けました。また、家庭で日常的に中国語を使っていて、日本語が不十分な子どもには、国語の個別指導を行っており、効果が上がっていること、また、中学部は現地の「実験校（日本の国立大附属のような学校）」と英語での交流を行っているとの説明を受けました。

蘇州日本人学校は、まだ新しい日本人学校ですが、校長を中心に、事務の方や運営委員会の皆様も協力して、学校運営等に大変力を入れてくださっているのが良く伝わってまいりました。歴史ある街に誕生した日本人学校ということで、校長や音楽の先生自ら作詞作曲された校歌も用意され、子供たちも習熟度別に学習するなど、恵まれた学習環境が整えられていました。子どもたちの授業中の発言の中にも綺麗な発音の中国語が混ざり、海外で育つ子どもならではの特徴も見せていただいた気がします。

○最後に

今回訪問させていただいた3校の日本人学校とも、現地の学校などと盛んに国際交流行事を行うなど、海外の日本人学校ならではの国際色豊かな一面が印象的でした。

今回の出張は普段、私達がオフィスで机に向かっているだけではなかなかわからない、日本人学校が抱える問題や素晴らしさを肌で感じることができた、大変有意義な出張でした。訪問地で大変お世話になりました各学校運営委員会等関係者、各日本人学校校長、教頭、先生方、国際交流ディレクターの方々にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。



事務連絡

平成１８年度日本人学校校長研究協議会及び補習授業校派遣教員研究協議会の開催について

在外教育施設指導係　荒井　忠行

標記について、各地区の日本人学校幹事校並びに補習授業校幹事校に対し、提出いただいた日程案のとおり本研究協議会を実施するとともに、下記のことを参加校に周知するよう依頼しております。

各校にあっては、本研究協議会の趣旨をふまえ、課題の解決、目標の達成に努めるよう願います。

記

1. 本研究協議会への参加に伴う出入国に際し、査証取得のために所持する旅券の有効期間が短く、有効期間の延長を必要とする場合は、必ず事前に在外公館の担当官に相談し、所要の手続きを取ること。

2. 本研究協議会の実施期間を越える滞在や不必要な立ち寄り等、本研究協議会に関し、誤解を生じさせるような行動は、厳に慎むこと。

3. 学校訪問にあっては、視察することとなる学校施設や授業参観等に関し、平成13年度において策定を依頼した「在外教育施設の教育及び管理運営等に係る理念、中・長期計画及び年度別実施計画」の実現のためどのような学校運営や教育実践を行っているか事前に説明を行い、事後に視察者による評価を実施するなどし、本研究協議会の趣旨に則った視察となるよう十分に計画いただきたいこと。

4. 本研究協議会終了後、すみやかに、文部科学省提案の協議テーマ等の協議結果、本研究協議会の成果としての提言及び決定事項等を取りまとめの上、報告するとともに、他地区等研究協議会幹事校へも参考となるよう配付していただきたいこと。

※　※　※

人事異動のお知らせ

庶務・助成係長　岩城　由紀子

このたび、８月２０日付で人事異動がありましたのでお知らせいたします。

8月20日付
（転出）
高橋　信雄　適応・日本語指導係長
→　スポーツ青少年局学校健康教育課専門職
（併）内閣府食育推進室主査

村岡　亜維　教職員課**研修支援係**
→　**適応・日本語指導係**

∽　∽　∽

退任の挨拶

適応・日本語指導係長　高橋　信雄
（※　肩書きは退任時のものです。）

このたび８月２０日付けで、スポーツ青少年局学校健康教育課の専門職となり、併任で内閣府の食育推進室に主査として配属されることとなりました。

国際教育課には1年５ヶ月あまりの在籍でしたが、帰国・外国人児童生徒の教育に携わらせていただきました。帰国・外国人児童生徒は、人数としては決して多くはないのですが、様々な支援を必要としており、力及ばずながら、その子ども達のための施策に携われたことは、非常に意義深く、今後とも私の心に残ると思っております。

私の仕事は、国内にいる子ども達の教育でしたので、在外教育施設におられる先生方とは、なかなかお付き合いさせていただく機会が少なかったのですが、１度だけブラジルに出張する機会があり、サンパウロとリオの日本人学校に訪問させていただいたことがあります。両校とも、周辺地域の治安に関して不安があり、校長先生をはじめ皆様ご苦労されておられましたが、一方で、日本から見て地球の裏側にある国でも日本人の子ども達のために、皆様のご努力によって、日本と同様の教育が行われていることに感動しました。両校の教職員の方々には、出張の際にお世話になったことをこの場をかりてお礼申し上げます。

今後は、食育という、また違った分野に携わってまいりますが、今までの仕事も生かしつつ、努力していきたいと思います。短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

新任の挨拶

適応・日本語指導係　村岡　亜維

８月２０日付けで、適応・日本語指導係に着任いたしました村岡亜維と申します。

これまでは、教職員課研修支援係で、教職員の研修に関わる仕事をしておりました。

国際教育に関する仕事に携わるのは、初めてですので、至らない点があると思いますが、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

少し遅い夏休みを利用して帰省してきました。実家は、小学校の時に転校を伴う引っ越しから文部科学省に転任するまで、ずっと住んでいたところでです。

転校したときは、言葉（方言）の問題などで、戸惑いがありました。親の都合でそれまでの友達と離ればなれになることがつらかったのが思い出されます。

在外教育施設に通う児童生徒は、国内の転校する場合よりも、大きな環境の変化にさらされるわけですから、本人が受けるストレスは大変なものになると思います。

現場の先生方、特に派遣されたばかり教員は、自身の異文化適応に併せて、多様な背景をもつ子どもたちと向き合わなければならず、ご苦労が多いと思います。

異文化で子どもを育てる親、在外教育施設の教職員、海外子女教育関係者からの教育相談に応える観点から書かれた「海外で育つ子どもの心理と教育－異文化適応と発達の支援－」（金子書房）［執筆者は、昨年までニューヨークで国際交流ディレクターをしていた栗原祐司氏とニューヨーク日本人教育審議会教育文化交流センター相談室相談員の森真佐子氏です。］が、このたび出版されました。

（N）

国際教育課「気球船」編集部

本誌へのご意見、ご感想をお待ちしています。下記までご連絡ください。

連絡先：E-mail:kokukyo@mext.go.jp

こちらも随時募集中です。

○投稿記事
（原稿料は出ません。ご了承ください。）

○新規配信配信依頼

○お願い○

・本誌は、回覧、転送等して、多くの方でご覧ください。

・特に断り書きのない記事については、転載は自由です。

～～9月号の内容～～

【巻頭言】――――――――――――――――――――1
○ 今後の日本人学校を考える ------1
文部科学省国際教育課長
手塚義雅

【世界の窓】――――――――――――――――――――2
○ ♪ また来週と手をふる姿 ♪ ------2
イーストテネシー補習授業校
校長　福永　規

【トピック】――――――――――――――――――――4
○ 出張報告（上海日本人学校虹橋校・浦東校、無錫補習授業校等、蘇州日本人学校） ---4
国際教育課企画調査係　森本　陽子
国際教育課教職員給与係　芹川　亜衣

【事務連絡】――――――――――――――――――――5
○ 平成18年度日本人学校校長研究協議会及び補習授業校派遣教員研究協議会の開催について ----------5
在外教育施設指導係　荒井　忠行

○ 人事異動のお知らせ ----------6
庶務・助成係長　岩城　由紀子

編集後記 ――――――――――――――――――――7